

## 生検に関するインシデント低減への取り組み

飯塚病院 内視鏡センター ○水上 美保、坂田 好子  
川畑 浩子、  
消化器内科 赤星 和也

【背景】A病院での内視鏡センターにおける検査・治療は年々増加傾向にあり 17000 件/年を超えている。検査室 10 部屋を稼働し、看護師 8 名と臨床工学技士 10 名が勤務している。A病院内視鏡センターにおいて、2015 年度はインシデント報告件数 60 件内、生検に関するものは 12 件あり全体の 20%を占めた。RCA 分析を行い改善策実施の結果、2016 年度では生検に関するものは 1 件と減少した。要因として検査医師とスタッフの情報共有不足によるものと分析しタイムアウトの導入を試みた。タイムアウト導入後、インシデント報告件数は 0 件となった。2 年間にわたる内視鏡センターでの取り組みと、タイムアウトの導入までの経緯を報告する。

【方法】2015 年度の生検でのインシデントの要因を分析し対策を立案し実施した。全検査室において処置台の統一と生検手順の統一化を図った。2016 年度に起こった一例の症例は、介助者だけではインシデント防止が出来なかった要因があり、検査前に患者情報の共有を図るため医師とのタイムアウトの実施を試みた。

【結果】生検手順の統一化や医師とのタイムアウトを導入したことで、生検に関するインシデントが 12 件から 0 件になった。現在も全症例において、タイムアウトを行い内視鏡記録に記載している。

【考察】タイムアウト導入は、医師・看護師・臨床工学技士の生検に対する意識づけになり、患者情報を共有することで同じ視点で検査に臨むことができた。タイムアウトを記録に残し、医師と復唱することは思い込みを防ぎ、検査前チェックの徹底ができインシデント防止につながったと考える。

【結論】検査前に医師とタイムアウトでの共通認識はインシデントの未然防止に有用であり、介助者と共にチーム医療を高められるツールである。今回、生検におけるインシデントは 0 件となったが、取り組みをはじめて 2 年経過し、時間の経過とともに生検に対するインシデントへの認識は低下しつつあり、ルールを守らず個々の手順で行っているスタッフがみられる現状がある。今後の課題として、定期的な抜き打ちチェックの継続と指導、手順やルールを守る職場環境や職場風土の見直しが必要である。

【連絡先：〒820-8505 福岡県飯塚市芳雄町 3-83 TEL0949-22-3800】